

令和7年度 吉川市立関小学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	4	ひとり立ちできる子の育成に向け、教職員一人ひとりが「子供が主役の学び～見通し、振り返り、自己決定～」を軸にした教育活動を実施した。	4	学校教育目標「ひとり立ちできる子」の育成に向け、「子どもが主役の学び」を合言葉にした学習活動や行事等に取り組んだ。引き続き、保護者・地域と連携協働を強化していく。
2	教職員は、PDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	4	学校評価や各種児童アンケートをもとに計画立案し、児童の実態に即した教育活動を推進した。学期末には教育課程の実施状況を見極め、計画の再検討を行った。	3	昨年度の学校評価を活用した教科指導・学級経営・校務分掌を推進した。来年度も本評価をもとにし、教育計画に反映させていく。
3	学校は、事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	4	専門家監修のもと危機管理マニュアルを改定し、事前・事後の危機管理に注力した。迅速かつ的確な対応が可能な組織を構築できた。	4	近年、多発している熱中症やケリイ豪雨等、学校安全に関する課題に取り組んだ。引き続き、迅速にそ着的な対応できる組織体制を整えていく。保護者・地域・学校で事故やトラブルに対して認識を高く持ち続け、対応していく。
4	学校は、清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	4	各清掃場所の担当職員自ら清掃活動の範を児童に示し、校内美化を推進した。また、季節や学習進度に適した掲示を行い、環境整備に努めた。	3	清掃活動や掲示物に力を入れ、校内の環境美化に努めた。異学年による清掃活動では協働的に校内清掃や整理整頓を行うことができた。また、季節を感じる掲示物や学びの基盤となるものを掲示し、豊かな心を育成できた。
5	学校は、小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	4	8月と2月に小中一貫教育合同研修会を実施した。中学校区のホスト校として、9年間を見通した主体性の育成を目指した授業や教育活動を展開した。	3	中1ギャップ解消に向け、小中で連携した事業（交換・交流授業）を実施した。今年度は2回にわたり、小中一貫合同研修会を実施した。小中一貫教育を更に充実することができた。
6	教職員はPTA活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	4	教職員自ら積極的に校外に出て活動（まち探検、社会科見学等）し、保護者・地域と協働した教育を推進した。「ひとり立ちできる子」を育成することができた。今後も各関係機関とともに地域の特色を学ぶ学習に取り組んでいく。	4	学校・保護者・地域が連携し、「ひとり立ちできる子」の育成に向けた協働的な活動ができた（運動会、持久走大会）。また、市役所や企業見学など、地域の特色を学ぶ学習に取り組んだ。
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	4	学校だよりで教育活動の様子や学校からのお願いを周知した。ホームページや連絡アプリを通して児童がいきいきと活動する様子を発信した。保護者地域の連携を強化できた。	4	学校だよりやホームページ、連絡アプリ等を活用し、児童の学校生活の様子を積極的に発信することができた。児童がいきいきと活動する様子を情報発信することができた。
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	4	読み語りボランティアや遊具のペンキ塗り、企業見学など、児童一人一人が自立するための学びを推進することができた。今後もさらに連携協働を継続していく。	3	読み語りボランティアやキャリア学習など、地域の人材を活用した教育活動を推進した。多様性や持続可能な社会づくりを学ぶことができた。
9	児童は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	3	落ち着いて学習に取り組もうとする児童や学習内容を自ら理解しようとする児童が増えた。児童個々の想いや願いに寄り添い、引き続き学習環境を整えていく。	3	学校と家庭で連携し、学習規律（人の話を聞くなど）の定着に努めた。学ぶ楽しさや意義について学校と家庭で共通理解を図り、今後も自律した学習者の育成を目指していく。
10	教職員は、学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童の実態に基づいた授業改善に努めている。	4	学習アンケートや全国、県の学力学習状況調査結果を分析し、個別最適な学びを推進する授業改善を行った。探究的に学ぶ児童が増えてきた。今後も継続していく。	4	学力向上を目指し、授業改善や家庭学習の充実、各学力調査結果の分析にもつなげた教育活動を展開した。今後も見直し、振り返り、自己決定を軸にした学びを展開していく。
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	4	すべての学年において、情報端末を積極的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びを展開することができた。ICTを活用したことで児童の多様な学びを実現した。	4	情報端末を活用した個別最適な学びを展開できた。情報モラル教育や目の健康保持にも注力し、今後も情報端末を活用していく。
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	4	2分前着席や人に迷惑をかけないなどの学習規律を学級ごとで話し合い、自律した学習者の育成を目指した。従来の一斉型授業に加え、対話型・協働型の学びを推進した。	3	2分前着席や話の聞き方など、学習ルールを定め、児童と対話を重ねながら学習に取り組む態度を育成した。今後も学校・家庭・地域で共通理解を図り、児童の学ぶ意欲を高めていく。
13	児童は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	3	教職員や来校者に進んであいさつすることが概ねできた。一方で友達に対する言葉遣いに課題がみられた。人権教育や道徳教育、発達支持的生徒指導の充実を進めていく。	3	進んであいさつすることや正しい言葉づかいをすることの大切さを児童とともに考えた。引き続き、道徳や特別活動等の学習を通して、児童の規律ある態度を育成していく。
14	児童は学習のルールや生活のきまり・時間を守ることができる。	3	多くの児童が学習のルールや生活のきまり・時間を守って学校生活を送ることができた。引き続き、学校・家庭・地域で連携、協働を図り、学習環境を整えながら児童の規律ある態度の育成を目指していく。	3	話を最後まで聞くことや学習用具の準備等、多くの児童がきまりを守って学校生活を送ることができた。引き続き、学習ルールや生活のきまりについて児童と対話を重ね、規律ある態度を育成していく。
15	児童はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合っており、学校生活を送っている。	3	人権教育や道徳教育を充実し、多様性を認め合える人間関係の構築を目指していく。また、異学年交流など協働的な学びを展開し、ともに支え合う喜びを経験させていく。	3	学校生活アンケートを各学期に実施し、いじめや意地悪な行為の有無についての実態調査を積極的に実施した。道徳教育や人権教育を軸に、互いのよさや努力を認め合う人間関係の構築を目指していく。
16	教職員は自ら手本となるなど、児童に対して規範意識を高める指導を行っている。	4	教職員も規範意識を高め、児童の手本となるよう教職員自身の規範意識を高めていく必要がある。児童に規範指導をする際は、発達支持的生徒指導を心がけ、規範についての大切さを児童自ら理解できるようにする。	3	教職員が自ら進んであいさつをしたり、校内美化に努めたりして規範意識を高める指導を推進した。引き続き、保護者・地域に協力要請し、児童の規範意識の向上を目指していく。
17	児童は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	4	楽しい体育授業の実施や朝運動、外遊びを推進することができた。多くの児童が心と体の一体であることに気づき、児童自ら体力を高めることができた。	4	できた、わかったを目指した楽しい体育授業や外遊びの励行を推進し、児童自ら健康を保持増進する児童を育成することができた。
18	学校は、児童の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	4	外部講師による健康指導や栄養指導、毎日の健康観察、養護教諭による保健指導など、多岐に渡る健康教育を展開することができた。	4	学校保健委員会や保健だより、給食だより、食育授業等を通して健康に関する知識や食育の大切さについて情報発信できた。引き続き、体力や健康・食育についての啓発していく。
19	学校は、児童の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童に寄り添った対応をしている。	4	児童の話を傾聴し、児童の想いや願いに寄り添った対応を心がけた。児童の「ひとり立ち」を目指した発達支持的指導を徹底し、「明日も通いたい」学校づくりを目指した。	3	児童の話を傾聴し、心情や願いに寄り添った対応を推進した。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、きめ細やかな教育相談体制を構築できた。
20	学校はいじめや不登校をなくすため、児童の指導の充実を図っている。	4	生徒指導課題の情報共有のスピード感を高め、組織的な指導体制を構築した。また、学び支援部やCOCOLルームを活用し、不登校防止に積極的に取り組んだ。	4	学校生活アンケートや心の健康観察を実施し、いじめや不登校についての実態把握に努めた。また、いじめ防止等のための基本方針を改定し、ホームページ公開や懇談会で説明を行った。